

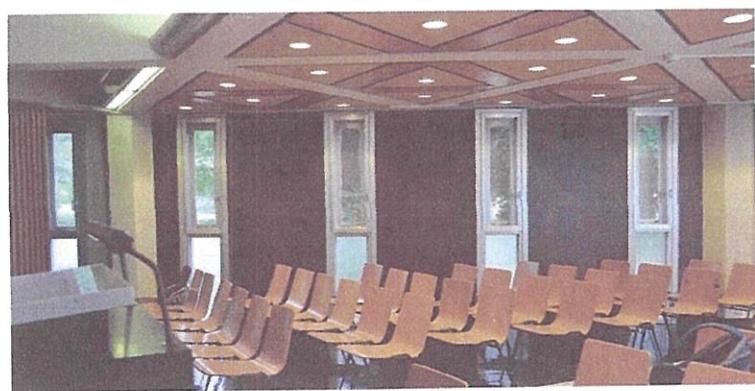
シーベリーチャペル募金

ICU入学50周年16期有志募金

ICUキャンパスの
心のオアシスに
再生の息吹を



入学50周年を迎える
16期の皆さまの
お力添えをお願いします



趣意書

16期の皆さん、私たちは2018年4月をもってICU入学50周年を迎えます（9月生は9月）。来年4月21日には16期生と41期生を対象とする学長主催「入学25周年50周年記念祝賀会」も開催されます。この節目を迎えるにあたり、有志の方々から募金を募り何らかの形で母校の発展に資するような寄付をしたいということで、同期会幹事に有志も加わり検討を重ねてきました。当初はICUピースベル奨学金への寄付を想定していたのですが、16期ならではの手応えをより実感できるような寄付のあり方はないだろうかと探るうち、最終的にシーベリーチャペルの補修・再生を目的とした寄付にしてはどうかという方向で話がまとまりました。

ところでシーベリーチャペルを覚えていらっしゃいますか。本館前の芝生の西側に木立に囲まれてひっそりとたたずんでいる白い建物です。三角チャペルとも言われていました。在学中にはほとんど足を踏み入れたことがなかった方も少なくないとは思いますが、かつては礼拝や集会以外にも、講演会（森有正や椎名麟三もここで講演）、結婚式、小規模な演奏会などにも使われていました。しかし、1959年竣工の建物は築58年を超えて各所に経年劣化が生じており、学外の人を招いての集まりなどに使うのは憚られるのが実態で、現在では学生が主体となって運営されているWorship Nightと称する礼拝集会が週1回行われている以外あまり使われていないようです。

先日、募金委員会のメンバーで実地検分する機会がありました。確かに随所に老朽化が見受けられましたが、縁に囲まれた小ぢんまりとした建物にはいかにもICUらしい安らいだ親密な雰囲気が感じられ、また建物・内装ともに正三角形を基調としたデザインで統一されていて、それが斬新でありながら落ち着いた独特の魅力的な空間を形づくっていました。適切に手を入れれば、今後ともICUの貴重な資産として有効活用できるという確信が得られました。

大学当局も手をこまねいていたわけではなく、維持のための予算も計上しているのですが、ICUの歴史遺産として泰山荘やD館などが優先され、シーベリーチャペルの十分な維持管理までは手がまわりかねているのが実情のようです。その意味でも、私たち16期の寄付が、埋もれていた母校の歴史遺産に改めて光を当て、そこに再生の息吹を吹き込むためのパイオニア的な役割を果たすのではないかと、大学側からも期待する声が上がっています。

以上のような趣旨の募金にご理解ご賛同をいただけるようでしたら、ぜひとも皆様方のご協力をいただきたくご高配のほどお願い申し上げます。

2017年12月吉日

入学50周年16期有志募金委員会

代表 大西直樹

●発起人 [アルファベット順。（ ）内は旧姓、末尾の〔 〕は入学時のセクションを示す。*は募金委員会メンバー。]

*浅野俊(康駿) [E] 古谷利夫 [K] *東哲郎 [I] 平田(秋田)為代子 [C] 平田眞 [J]

保立道久 [H] *磯崎(小方)真知子 [D] *菊池正己 [D] 久保美和子 [E] 三嶋輝夫 [J]

水谷修 [I] *中内俊一郎 [I] *新田(根本)美奈子 [E] *野副達司 [K] 小川(能智)明子 [D]

*大西直樹 [B] 菅谷(魚住)有子 [I] 砂川(沖野)有里子 [E] 砂川裕一 [K]

富永(八田)由美子 [I] 渡邊(北村)真理 [A] *William Steele [9月]

●シーベリー・チャペルについて



このチャペルは I C U 創設から間もない 1959 年に建てられ、正式名称は「ルース・イザベル・シーベリー記念礼拝堂」といいます。名称の由来となったシーベリー女史は I C U の創設に功績があった人物で、彼女の願いのひとつが、学生たちが日常の大学生活から一歩距離をおいて、心を落ち着け瞑想にふけることができる小さな礼拝堂をキャンパス内に設けたいということでした。その思いに共鳴したダンフォース財団から 5 万ドルの寄付があり、完成をめざすことなく他界した彼女の遺志が具現化される形で出来上りました。

日本における大学施設や教会建築に多大な足跡を残したヴォーリズ建築事務所が設計にあたり、建物全体の外枠から内部の天井にいたるまで正三角形を基調に統一されたデザインには、斬新でありながら落ち着いた安らぎが感じられます。収容人員 50 人ほどの肉声でコミュニケーションがとれる小ぢんまりとした室内にはどこか親密な雰囲気が漂い、三角形の空間に身をおくと、自己と向き合う一方で、他者とも互いの相違を尊重しながら心を通わせようという気持ちが促されるようです。

●シーベリー女史について



シーベリー女史 (Ruth Isabel Seabury, 1892-1955) はアメリカ・メイン州生まれの教育者・伝道家。クリスチャンの家庭に育ち、スミス・カレッジを卒業。その後 2 年間ほどの教員生活を経て、アメリカ組合教会伝道部に入つて世界中の若者たちの全人的教育に情熱と使命感を持って取り組み、活躍の足跡は 27 カ国に及んだそうです。

I C U の初代学長をつとめた湯浅八郎とは、戦前彼がアメリカに滞在したときから親交を結んでいました。1947 年から 49 年にかけて来日し、湯浅が総長の任についていた同志社大学で教育顧問をつとめたほか、I C U の創設活動にも尽力し、建学の理念形成に影響を及ぼしたのではないかと推測されます。

Aspire nobly,

Adventure daringly,

Serve humbly



[ダンフォース財団がチャペル建設のための寄付に際して若者たちに向けて掲げたスローガン]

●募金要項と想定使途

①寄付金額は1口1万円で何口でも。②寄付締切りは2018年3月末。
③16期としての目標額は100万円。④寄付金の使途としては、まずは空調機の交換（現在のものは1998年5月に交換設置）や黴臭の除去などを想定していますが、これについては、シーベリーチャペルの補修と利用に関する大学側の意向と擦り合わせながら決定します。なお、寄付金の払込方法や免税措置などについては別紙をご覧ください。募金事務は大学アドヴァンスメント・オフィスが担当します。

●次回の同期会予定

次回の同期会は、上記の「入学25周年50周年記念祝賀会」（2018年4月21日）のあとでシーベリーチャペルにて茶話会の形で開催する予定です。そこでSteele先生によるシーベリーチャペルについてのお話も予定しております。近くになりましたら改めて詳しいご案内を差し上げますが、こちらもご参加いただけますと幸いです。

●募金委員会への お問い合わせ

下記のアドレス宛にお願いいたします。
icu16seabury@googlegroups.com

